

第2回 伊勢原市総合計画審議会 会議録

〔開催日時〕 令和4年1月20日(木)から26日(水)まで

〔開催方法〕 書面開催（新型コロナウイルス感染症拡大のため）

〔出席者〕

（委員） 勝田会長、北川職務代理

赤星委員、秋澤委員、大川委員、大谷委員、小川委員、久保委員、
桑原委員、小嶋委員、佐伯委員、菅原委員、高橋委員、竹村委員、
田中委員、長荒委員、西村委員、牧野委員、森 委員、吉川委員

（事務局） 宋戸副市長、山室企画部長、成田企画部参事(兼)経営企画課長、
瀬尾主幹(兼)係長、成澤主任主事、田伏主任主事、権田主事、吉川主事

■議題(1) 基本構想及び基本計画の構成要素(案)について

（委員）

将来都市像に含まれるかもしれませんが、どのような基本姿勢や理念をもちながら、各政策に取り組んでいくのかを今後明らかにされると、市民へのメッセージとなって伝わり、より多くの人から共感が得られる総合計画になるのではないかと思います。

（事務局）

策定方針において示した、市民の暮らしやすさとまちの持続性を向上させるための5つのまちづくりの視点が、ご意見にある基本姿勢や理念に該当するものです。ご意見の趣旨を踏まえ、この視点を基本として、将来都市像とは別に、基本理念を基本構想の要素として加えていくことを検討してまいります。

■議題(2) 現行計画の評価について

（委員）

令和2年の40の施策に対する評価において、「市民意識の反映が不十分であると考えられる施策」「再検討を要すると考えられる施策」という表現がありますが、これは、調査回答のどのような点で、反映が不十分、再検討を要すると解釈されるのでしょうか。

（事務局）

「市民意識の反映が不十分であると考えられる施策」は、内部評価又は外部評価で、市民意識の反映がC評価となった施策となります。また、「再検討を要すると考えられる施策」は、外部評価で「取組手法の有効性（事業の構成）又は「施策の方向性」がC評価となった次の施策となります。

- 施策No.8 次代を担う子ども・若者の育成支援の推進（C評価）

〔施策を構成する事業〕

放課後子ども教室推進事業、子ども・若者相談事業、婚活支援事業等

〔外部評価の内容（抜粋）〕

婚活支援事業については、民間サービスが確立されている中、行政が支援することの意義を課題として考え、改廃も視野に入れた検討を行う必要があります。

○ 施策No.22 誰もが働きやすい環境の整備（C評価）

〔施策を構成する事業〕

地域雇用・創業・就労支援事業、ワーク・ライフ・バランス普及促進事業等

〔外部評価の内容（抜粋）〕

各事業の指標の目標値は達成しているが、市民満足度の達成状況の値が当初値より低下するなど、事業効果が薄く有効性に疑問があるので、事業構成や手法の大幅な改善が必要です。

■議題(3) 基本政策について

（委員）

核家族化等により地域の結びつきが希薄化する状況の中、地域防災力向上の観点からも、「地域のコミュニティの構築」が「まちづくりの方向性」に含まれていることは、すばらしいと思いますが、人との接触が感染の要因となっているコロナ禍において、「どのような形態」で結びつくかということがポイントになると考えます。

（事務局）

ご意見のとおり、新型コロナウイルス感染拡大を契機に情報伝達手段の再構築が求められているものと認識しており、本市においても、自治会回覧板をホームページに掲載するなど、「新しい生活様式」を踏まえた対応に取り組んでいます。地域コミュニティの最も重要な基本は、お互いの顔が見える対面でのつながりであると理解していますが、それを補完するものとして、地域活動における ICT 利活用の促進を図っていく必要があると認識しています。

（委員）

「子ども」「高齢者」を起点とした「コミュニティづくり」ということは、どのように考えられているのでしょうか。「こども食堂」というのがありますが、食堂に限らず、高齢者や子どもといった、いわゆる社会的弱者を中核に据えた日常的なつながりを構築し、その関係性を、そのまま地域防災力につなげることができるのではと考えます（樋口恵子先生も、「老人にこそ「食堂」が必要」とおっしゃっています）。

（事務局）

「子ども」「高齢者」を起点とした「コミュニティづくり」に関しては、少子化や核家族化等により、異年齢・異世代交流の機会が減少し、また、共働き世帯の増加等により、子どもの居場所づくりが全国的な課題となっています。一方で、更に高齢化が進行する中で、高齢者の社会参加や生きがいがいづくりも求められており、高齢者に地域社会の担い手として、また、次世代の担い手の育成など、活躍

いただくことが重要な視点であると捉えています。こうした社会環境の変化を念頭に、いただいた御意見を踏まえ、多世代交流により地域課題の解決が促進される方策を検討します。

■議題(4) 土地利用構想の考え方について

(委員)

現在の伊勢原市の姿は、徐々にゆっくりと今の伊勢原市となった経緯があり、そのような変わり方が自分は好きで馴染んでいます。土日になれば駅北口のバス乗り場では階段まで行列ができ、にんまりとします。買い物客は駅南側に直行し、駅北口の商店街がやけに淋しく感じますが、野暮ったくて、少し歩けば田畑のある伊勢原市がとても好きであり、今後にもぎわいや都市化はゆっくり進んで欲しいと思います。

(事務局)

本市は、豊かな自然環境のもと、首都近郊都市として住宅や産業などのバランスの取れたまちづくりを進め、これまで順調に発展してきました。人口が減少局面に移行しつつある中、都市機能の充実や賑わいの創出は、今後も市民生活の利便性や経済活動等を支える重要な要素であると考えています。自然環境と都市環境が調和した暮らしやすさが本市の特徴であり、魅力の一つでもあります。御意見にある本市の良さを今後も大切にしながら、持続可能なまちづくりに取り組んでまいります。